

令和3年度

石井中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒自ら考え、楽しく・わかる授業作り
- タブレットコンピュータの効果的な活用 -
- 家庭学習習慣の定着

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 (3年学年主任)	委員 副校長: 教務主任: 学年主任:(1年) 教科主任	教頭: (2年)	校長
---------------------	---------------------------------------	-------------	----

○次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や生徒・教員へのアンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的事項を理解しようと努める生徒が多い。 ●テスト後の復習等が不十分であり、自主的な取組には至っていない。	・授業に目的意識をもって臨み、学んだことを習熟している。 ・毎日、家庭学習の時間を確保し、予習復習を習慣化している。	・授業の復習となる課題や反復を伴う課題を課し、それらの確認を丁寧に行う。 ・テスト後の復習等の重要性を理解させ、自主ノート等に復習することを習慣化させる。	・これまでの取組を継続していく。	・96%の教員が定期的にノートやワーク等を点検し、生徒の学習状況の把握を丁寧に行った。 ・家庭学習が1時間未満の生徒が41%と昨年度の35%を上回り、十分な時間の確保には至っていない。	・家庭学習の充実を図ることが大きな課題である。さらに39%の生徒が、テスト後の復習を行っておらず、引き続きその重要性を理解させ、習慣化することで、学んだことの習熟を図っていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合い活動の重要性を認識している生徒が多い。 ●自分の考えや意見を表現することに苦手意識をもつ生徒も少なくない。	・言語能力を高めていく。 表現が工夫できる。 理由が述べられる。 思考の過程を説明できる。	・発展学習の充実を図るために、多様な教材及び活動形態を取り入れ、伝え合う活動を積極的に設定する。 ・考え方や解き方、根拠を問う問題を定期テストに取り入れる。	・これまでの取組を継続していく。	・今年度も多様な活動形態を取り入れることは難しかった。 ・多様な意見の出る発問を心がけた教員は83%にとどまり、授業中の発表に対して消極的な生徒が50%いた。	・話し合い活動の良さを実感できている生徒は71%と多く、引き続き、言語活動を充実させる。 ・考え方や解き方、根拠を問う問題に意欲的に取り組む生徒も84%と多く、発展学習の充実も図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイム着席・授業準備等、学習マナーが身につけている生徒が多い。 ●自ら疑問や課題をもって授業に臨んだり、進んで発表したりする生徒は少ない。	・始業時の準備を徹底し、授業中のルールを守り、周りとともに学び合える。 ・自ら疑問や課題をもって、主体的に取り組む。	・総合的な学習の時間の中で、日常生活に関連し多様な考え方ができる課題に取り組ませる。 ・タブレットコンピュータの効果的な活用を図る。	・これまでの取組を継続していく。 ・新しく導入されるソフトウェアの活用方法を考える。	・92%の生徒が、総合的な学習の時間の、日常生活に関連し多様な考え方ができる課題に意欲的に取り組んだ。 ・86%の生徒が、タブレットコンピュータの活用が学習に役立つと答えた。	・生徒自らが疑問や課題をもって、主体的に取り組む場面を積極的に設定する。 ・引き続き、タブレットコンピュータの効果的な活用を図っていく。

令和3年度 学力向上ロードマップ

